ウポポイ  
NATIONAL ASIAN HERITAGE AND DIVERSITY  
民族共生象徴空間令和 7 年 12 月 3 日  
室蘭開発建設部いのちとくらしをまもる  
防災減災

## 「鵡川水系河川整備計画」、「沙流川水系河川整備計画」を 変更しました

北海道開発局では、「鵡川水系河川整備計画」、「沙流川水系河川整備計画」の変更に向けて、河川法第16条の2の規定に基づき手続きを進めて参りました。

今般、鵡川・沙流川流域委員会、関係住民及び北海道知事等のご意見を踏まえ、令和7年12月3日付けて「鵡川水系河川整備計画」、「沙流川水系河川整備計画」を変更しましたので、お知らせします。

整備計画変更のポイントは、以下のとおりです。

- ① 近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備
- ② 流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）
- ③ 生物の生息、生育、繁殖の場としてもふさわしい河川整備の定量的な目標を設定

詳細については、以下の室蘭開発建設部のホームページにて公開しております。

鵡川水系河川整備計画：<https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tisui/tn6s9g00000053i1.html>

沙流川水系河川整備計画：<https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tisui/tn6s9g0000005z69.html>

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 電話（治水課）0143-25-7045

治水課 課長

はまなか 濱中 あきふみ 昭文 (内線 291)

治水課 流域治水対策専門官

おおにし 大西 まさかた 正容 (内線407)

室蘭開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>



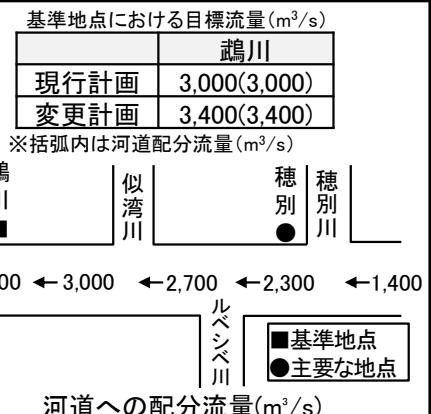
# 鵡川水系河川整備計画【変更】【大臣管理区間】概要

・平成21年3月に変更した鵡川水系河川整備計画について、令和7年12月に変更しました。変更のポイントは、以下のとおりです。

## ①近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

### 〈目標流量について〉

- 下流部では、気候変動後(2°C上昇時)の状況においても平成21年(2009年)3月に変更した前河川整備計画での目標(戦後最大である平成4年(1992年)8月洪水規模)と同程度の治水安全度を確保するため、気候予測アンサンブルデータ等を踏まえ、目標流量は基準地点鵡川で3,400m<sup>3</sup>/sとする。
- 中流部では、対象期間や現在の整備状況を踏まえ、戦後最大規模の洪水である平成4年8月降雨により発生する洪水流量を安全に流下させることを目標とする。



### 〈河道の掘削を実施する区間〉



## ②流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）

気候変動の影響や社会状況の変化等を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図る。

### 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



### 被害対象を減少させるための対策



### 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



「田んぼダム」の取組促進

河道掘削土を活用した農地の嵩上げ

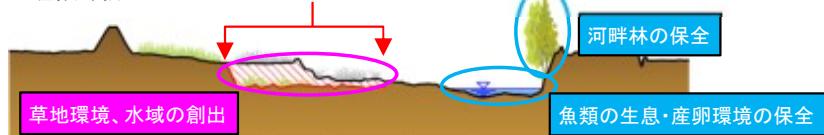
グループ学習によるマイ・タイムラインの作成

## ③生物の生息、生育、繁殖の場としてもふさわしい河川整備の定量的な目標を設定

### 〈河川環境の整備と保全・創出〉

- 河道の掘削に当たっては、保護を基本としたうえで、掘削等による改変を最小限とするなどのミティゲーションの考え方に基づき、生息場を保全するとともに、動植物等の生息・生育・繁殖環境を創出する。

《河道掘削のイメージ図》 河岸際を残した掘削: 川幅の拡幅によるシシャモ産卵環境への影響を回避  
(例: 下流域(シシャモ産卵区間)) 縦断的に掘削敷高を工夫: ワンド及び湿生植物の生育地を創出



### 河川整備において目標とする河川環境

河川区分	草地環境	自然裸地	水域
河口域	60ha程度	10ha程度	40ha程度
下流域	130ha程度	60ha程度	70ha程度
中流域	350ha程度	110ha程度	190ha程度
大臣管理区間	540ha程度(37%)※	180ha程度(12%)※	300ha程度(20%)※

※%は大臣管理区間の河道面積内に占める割合を示す。

- 流域の自然環境の保全や創出を図るほか、川の中を主とした「多自然川づくり」から流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、地域経済の活性化やにぎわいの創出を図る。



環境学習の実施



### 〈河川景観の保全・創出〉

- 中流域の丘陵高台や下流域の市街地と一体となった田園風景、河口域の干涸等、多様な景観を有する鵡川の現状を考慮し、農地・市街地・山地等と一体となった景観の保全・創出を図る。

河口干涸付近に飛来するオグロシギ・ハマシギ等

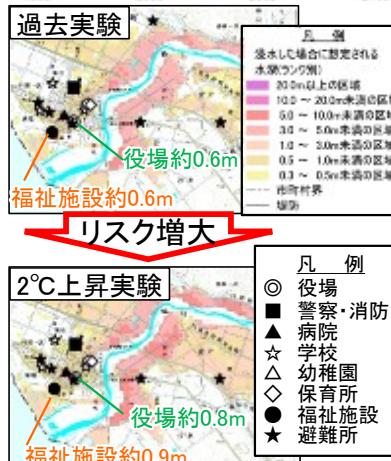
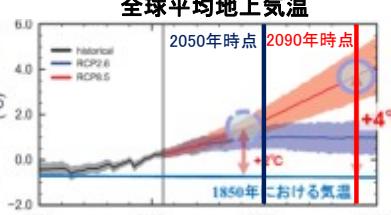
・鶴川水系河川整備計画の変更の背景は、以下のとおりです。

## ①近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～  
<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2°C上昇	4°C上昇 短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4
九州北西部	1.1	1.4
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2

- ・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2°C程度上昇することが予測されています。
- ・また、今世紀末には最も高い温室効果ガス濃度のシナリオ(RCP8.5)で4°C上昇が予測されています。
- ・北海道では2°C上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。



## ②流域治水への転換を踏まえた治水対策(流域治水の取組推進)

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図ります。

### 流域治水の3つの柱

- 被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策



## ③第9期北海道総合開発計画の目標、鶴川流域の将来像の視点

### ～第9期北海道総合開発計画の目標～

- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道  
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造  
～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」

### ～鶴川流域の将来像の実現「地域づくりビジョン」を踏まえた視点～

#### 農林水産業や観光

##### 生産空間の保全による、安全・安心に暮らせる国土づくりの実現

- ・鶴川沿川で生産される「ななつぼし」「ゆめぴりか」等のブランド米、「むかわの野菜」、「ほべつメロン」の栽培・生産に必要な洪水対策および水資源確保
- ・むかわ町の特産品である「むかわししゃも」等に必要な水質保全と河川環境の維持
- ・河川空間を利用した住民一体での賑わい創出と観光振興



- 地域の将来像の基盤となる、気候変動を踏まえた流域の安全度確保
- 流域特性を生かした流域治水の推進
- 地域を支える豊かで良質な水資源の保全と河川空間の形成

#### 環境・景観

##### 流域全体の相互協力による 環境・景観の保全・創出

- ・河川を基軸とした生態系ネットワークの形成
- ・市街地や農作地帯及び森林地帯と調和した鶴川らしい河川景観の保全・創出
- ・アイヌ文化の保存・継承・振興に向けた取組



#### 脱炭素

##### ゼロカーボン北海道の実現

- ・森林整備等の流域治水やバイオマス発電等のカーボンニュートラルの取組を推進



伐開樹木をチップ化し  
バイオマス発電燃料等として有効活用

・平成19年3月に変更した沙流川水系河川整備計画について、令和7年12月に変更しました。変更のポイントは、以下のとおりです。

## ①近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

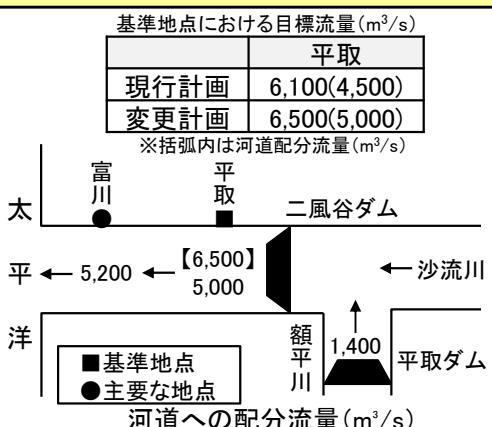
### 〈目標流量について〉

- ・気候変動後(2°C上昇時)の状況においても平成19年(2007年)3月に変更した前河川整備計画での目標(戦後最大である平成15年(2003年)8月洪水規模)と同程度の治水安全度を確保できる流量を安全に流下させることを目標とする。
- ・目標とする流量の検討にあたっては、気候予測アンサンブルデータ等を踏まえ、基準地点平取で6,500m<sup>3</sup>/sとする。

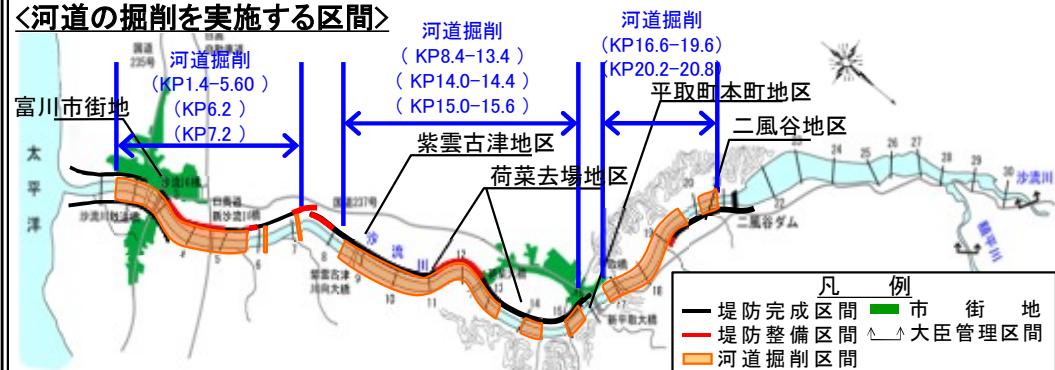
基準地点における目標流量(m<sup>3</sup>/s)

	平取
現行計画	6,100(4,500)
変更計画	6,500(5,000)

※括弧内は河道配分流量(m<sup>3</sup>/s)



### 〈河道の掘削を実施する区間〉



## ②流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）

気候変動の影響や社会状況の変化等を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図る。

### 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



### 被害対象を減少させるための対策



### 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



## ③生物の生息、生育、繁殖の場としてもふさわしい河川整備の定量的な目標を設定

### 〈河川環境の整備と保全・創出〉

- ・河道の掘削に当たっては、保護を基本としたうえで、掘削等による改変を最小限とするなどのミティゲーションの考え方に基づき、生息場を保全するとともに、動植物等の生息・生育・繁殖環境を創出する。

《河道掘削のイメージ図》  
(例:下流域(シシャモ産卵区間))



### 河川整備において目標とする河川環境

河川区分	草地環境	自然裸地	水域
下流域	110ha程度	30ha程度	50ha程度
中流域	200ha程度	50ha程度	100ha程度
上流域	20ha程度	10ha程度	30ha程度
大臣管理区間	330ha程度(38%)※	90ha程度(10%)※	180ha程度(20%)※

※: %は大臣管理区間の河道面積内に占める割合を示す。

- ・流域の自然環境の保全や創出を図るほか、川の中を主とした「多自然川づくり」から流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、地域経済の活性化やにぎわいの創出を図る。



### 水辺空間の整備によるアイヌ伝承活動の場の創出



### 〈河川景観の保全・創出〉

- ・中流域のアイヌ集落や森林、下流域の市街地や牧歌的な田園風景、河口部の海岸風景等、多様な景観を有する沙流川の現状を考慮し、農地・市街地・山地等と一体となった景観の保全・創出を図る。

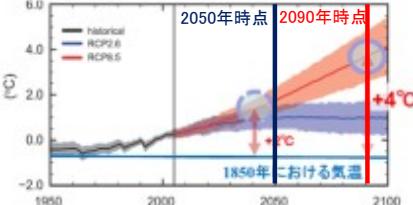


・沙流川水系河川整備計画の変更の背景は、以下のとおりです。

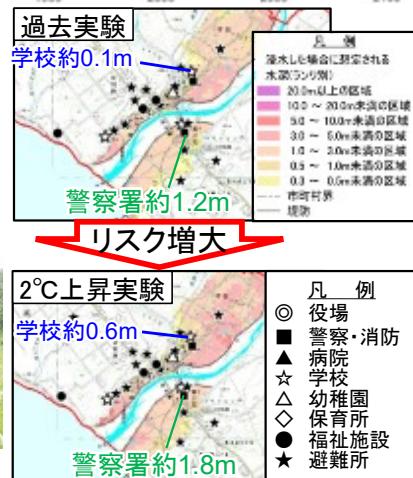
## ①近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～  
<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2°C上昇	4°C上昇 短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4
九州北西部	1.1	1.4
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2



- ・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2°C程度上昇することが予測されています。
- ・また、今世紀末には最も高い温室効果ガス濃度のシナリオ(RCP8.5)で4°C上昇が予測されています。
- ・北海道では2°C上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。



## ②流域治水への転換を踏まえた治水対策(流域治水の取組推進)

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図ります。

### 流域治水の3つの柱

- 被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策



流域治水イメージ

## ③第9期北海道総合開発計画の目標、沙流川流域の将来像の視点

### ～第9期北海道総合開発計画の目標～

- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道  
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造  
～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」

～沙流川流域の将来像の実現「地域づくりビジョン」を踏まえた視点～

### 農林水産業や観光

#### 生産空間の保全による、安全・安心に暮らせる国土づくりの実現

- ・沙流川沿川で生産される「ななつぼし」「ゆめぴりか」等のブランド米、「びらとりトマト」、「きゅうり」などの栽培・生産に必要な洪水対策および水資源確保
- ・「シシャモ」や「サケ」、「サクラマス」等に必要な水質保全と河川環境の維持
- ・全国有数の「軽種馬」や「びらとり和牛」の育成・生産に必要な洪水対策の実施
- ・河川空間を利用した住民一体での賑わい創出と観光振興



➢ 地域の将来像の基盤となる、気候変動を踏まえた流域の安全度確保

➢ 流域特性を生かした流域治水の推進

➢ 地域を支える豊かで良質な水資源の保全と河川空間の形成

### 環境・景観

#### 流域全体の相互協力による 環境・景観の保全・創出

- ・河川を基軸とした生態系ネットワークの形成
- ・市街地や農作地帯及び森林地帯と調和した沙流川らしい河川景観の保全・創出
- ・アイヌ文化の保存・継承・振興に向けた取組



### 脱炭素

#### ゼロカーボン北海道の実現

- ・森林整備等の流域治水やバイオマス発電等のカーボンニュートラルの取組を推進



伐開樹木をチップ化し  
バイオマス発電燃料等として有効活用